

私が今ハマっているもの!

～たこ焼き器でベビーカステラ作り～

ホームガス課 野畑 貴史



ベビーカステラとは、ホットケーキ・カステラのような生地を球状に焼いたもので、いわゆる粉もの一種である。専用の機械を使って、楕円状の型に生地を流し込みふたをして数回反転して焼く。祭りの屋や縁日でよく売られ、家庭ではたこ焼き器を使用して作られる事もある。

(参照：ウィキペディア)

私はベビーカステラが好きで、祭りの屋台などで売っていると必ず買ってしまいます。しかし、コロナウイルスの影響で祭りに行く機会も減り、自分で作れないかと考えインターネットで検索しました。するとたこ焼き器で作れると知り作ってみました。何回か試行錯誤し、作るたびに綺麗にできるようにはなってきました。

レシピを検索すると多数出てきますので、よければ皆様も作って見てください。自分好みでバターや砂糖の分量を増やしたり、はちみつを足したり好みの味に近づけるのも楽しみのひとつです。

一つレシピを載せておきます。よければ参考にしてみてください。

☆材料(4～6人分)【30～32個分】

●卵…2個 ●砂糖…大さじ3 ●はちみつ…大さじ3 ●みりん…大さじ3 ●牛乳…大さじ3
●サラダ油…大さじ3 ●ホットケーキミックス

☆作り方

- ①ホットプレートを低温で熱し、サラダ油(分量外)をキッチンペーパーにつけて、たこ焼きの穴に塗る。
- ②ボウルに卵、砂糖、はちみつ、みりん、牛乳、サラダ油を入れ、ホイッパーでよく混ぜる。
- ③ホットケーキミックスを加え、ダマがなくなるまで混ぜる。
- ④生地のできあがり。
- ⑤ホットプレートは低温のまま、スプーンで生地を入れていく。
- ⑥表面がプツプツして生地が焼けてきたら、竹串をさして片方の上にのせる。
- ⑦竹串を使って回しながら焼く。



豆知識 ベビーカステラはいつ頃できたの?

ベビーカステラは大正10年ごろ、兵庫県西宮市辺りで生まれた…といわれています。関西で生まれたベビーカステラは戦後、露店商組合の早野会の商店が東京へ進出して売り始めたことで、関東でもベビーカステラが認知されるようになったんだとか。

豆知識 最初はベビーカステラという名称ではなかった!?

ちなみに当時、ベビーカステラという名称ではなく、チンチン焼きと呼ばれていたそうです! 当時ベビーカステラを焼く機械にはベルが付いており、機械をひっくり返すたびにベルがチンチンとなることからチンチン焼きと呼ばれるようになったとか。

その後、昭和29年(1954年)に“小さなカステラ”という意味で三宝屋がベビーカステラと名付けたようです!

参考: <https://xn--info-ec4c1ewa5598fn0vf.site/1084> <https://recipe.rakuten.co.jp/>

アポロ新聞

カーボンニュートラルって!?

外販課 吉澤 宏和

最近よく耳にする『カーボンニュートラル』。横文字~!? なんか難しそう…とつい耳を塞いでしまいそうな言葉ですね。今回は簡単にカーボンニュートラルについて語ります。

2020年10月、日本の総理は言いました。「我が国は2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに誓います」

温室効果ガスとは?

二酸化炭素・メタン・一酸化二窒素・4種のフロンガス。これらの総称として温室効果ガスという言葉が用いられています。

カーボンニュートラル

「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」これは排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにするという意味です。つまり排出を完全にゼロに抑えることは現実的に難しいため、排出せざるを得なかった分については同じ量を吸収、除去することで差し引きゼロを目指しましょう。というのがカーボン(炭素)ニュートラル(中立)です。

簡単に言うと、**二酸化炭素の排出・吸収をブライゼロ**にしようって話です。

いつまでにどのような活動をするの?

期限は2050年を目標としています。かなりの長期戦のように感じられますが、現在、生活していく中でCO₂(二酸化炭素)を排出する事は一般的です。2050年までに少しずつ改善を進めていこうというシナリオです。これは日本だけではなく「パリ協定」でも掲げられており現在世界124カ国・1地域が賛同しています。

大きな活動の一つとして自動車問題があります。車の製造過程でどのようにCO₂を削減するか? また、完成された自動車本体の排気ガスの削減はどのように改善していくか? 日々、様々な課題と向き合いながらも、モノづくり日本としての意地を見せてくれるはずですが。現在の自動車の燃料は石油からできている為、排ガスに多くのCO₂などが含まれます。そこでガソリン車のエネルギーを見直し、電動車(EV車)を普及させていく事を目指すのもその一つです。水素を燃料とする車が話題になっているのもその一環ですね。

CO₂の排出ばかりでなく吸収する活動として森林活性運動にも多くの企業が参加しています。たくさんCO₂を吸収してくれる植物を育成することもこのプロジェクトになっています。

小さなことですが私たちの生活でも、照明を発熱電球からLEDに変更したり、エアコンの設定温度を意識し、買い物時にエコバック持参しナイロンレジ袋を使用しない事でCO₂削減に貢献できます。

今回の話のゴールは地球温暖化抑制です。私たち一人ひとりの努力は小さなものですが、全員で取り組めば大きな結果が生まれるはずだと信じています。

